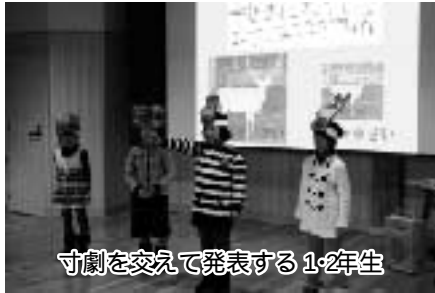


すばらしい洞爺湖 温泉小児童が学習発表会

2月19日洞爺湖温泉小学校の児童による環境学習発表会「なんにも知らなかった 洞爺湖のこと」（北海道地方環境事務所主催）が洞爺湖ビジターセンターで開かれ、同小1、2年生と4年生が、今年度生活科や総合的学習で学んだ洞爺湖周辺の自然やウチダザリガニなどのことを、集まった父母や住民ら約80人を前に報告しました。

1、2年生の発表

「外来種のウチダザリガニが増えると、洞爺湖の水草や小魚やエビを根こそぎたべてしまうので、産卵のため遡上するサクラマスなどに影響が出てしまう」と生態系への変化について、寸劇やクイズを交えてわかりやすく説明しました。中島のシカについても、植物や草などが食べつくされ、それによって鳥や虫などが少なくなるおそれがあり、シカのフンをえさにしているダイコクコガネだけがが増えてきていると報告しました。



寸劇を交えて発表する1・2年生

4年生の発表

<火山学習グループ>

「温泉の誕生」と「植生の回復」の二つの恵みについて報告がありました。温泉は、100年前の有珠山の噴火により誕生。西山山ろく火口などの植物は、主に背の低い植物ですが、100年が過ぎると四十三山のように緑豊かになることがわかりました。

生き物についても、洞爺湖周辺の環境の違いにより、いろいろな種類の生き物が住んでおり、洞爺湖の自然の恵みのすばらしさについて説明がありました。

<生き物グループ>

洞爺湖の自然の豊かさの中で、問題となっているのがウチダザリガニ。今から約80年前にアメリカからある人が連れてきたもので、その存在が環境破壊を起こしています。

水草や小魚を食べつくしてしまうことで、サクラマスやヒメマスのえさがなくなり、生態系を壊してしまいます。そのためには、ウチダザリガニが広がらないよう調査したり、防除したりすることが必要です。

<中島学習グループ>

現在中島のシカは303頭ほど確認されています。下草を食べ、木の皮まで食べています。このままでは、緑がなくなってしまう。その結果シカのフンをエサとするダイコクコガネという珍しい生き物がいます。

みなさんの力を借りて、私たちは中島を元通りにしたい。

講演「輝く地域づくりをめざして～協働力をつける～」 札幌国際大学准教授 佐久間 章氏



2月21日、平成22年度婦人学級が防災研修ホールで開かれ、町内の婦人団体に参加している人たちが集まり、地域づくりについて学びました。講演の概要を紹介します。

地域づくりとは、どのようなことなのでしょう。地域づくりは、地域の課題を解決していく取り組みのことをいいます。住民の皆さんの行動で解決していくことです。そのためには、そこに住んでいる人の意識と行動が変わらなければなりません。

現在、住民参画による地域づくりの重要性が叫ばれています。そのキーワードが「新しい『公共』と協働」です。これまでの「公共」では、行政がサービスを提供し、住民はもっぱら供給される立場でした。しかし、財政が厳しい中で、この関係は見直さざるおえなくなってきました。つまり、自助（自分で行うこと）、共助（何人かで力を合わせて行うこと）そして公助（行政が行うこと）の関係を改めようとする考えです。現実的には、公助の割合を縮小し、共助の割合を広げ、共助と公助の境界に位置するものは「協働」によって進めていこうというものです。住民と行政が、相互の理解と信頼のもとに目的や責任を共有し、連携・協力することによって、地域の公共的な課題の解決にあたらうとすることです。今や行政にすべてをまかせる時代ではありません。住民自らが中心となって行政との協働の取組によって「公共」を担っていく時代です。

地域には様々な課題が山積しています。無縁社会、高齢化、教育問題などいろいろな問題があります。まずは、自分の町にとって一番の課題は何なのか、様々な角度から検証し、明らかにすることが大切です。そして、課題解決に向けての取組にあたって大切な視点が二つあります。

一つは、地域の人達がつながることです。地域住民のネットワークは、地域づくりを進める上での基盤といえます。二つ目は地域課題を共有することです。住民の意見交換の場を設け、議論することで、地域課題についての理解を深め、課題解決に向けて意欲を高めることができます。こうした「つながり」や「地域課題の共有」は、「対症療法的な効果」だけでなく、地域課題を未然に防ぐ「予防的な効果」も期待することができます。

さあ、早速行動を起こしましょう。正解を求めて会議を繰り返すよりも、皆が合意したらやってみる事です。うまくいかなければ修正すればよいのです。そして、あまり深刻にならずに、楽しくやることです。それが取組を継続させる秘訣です。地域をしっかりと見つめて課題を確認し、輝く地域づくりにまい進していきましょう。